

平成21年度実施 地域ICT利活用モデル構築事業 成果報告書

実施団体名

福島県南相馬市

事業名称

南相馬市ICT活用在宅介護システムモデル

1. 事業実施概要

在宅介護見守りシステムを新たに WindowsVista にも対応するよう改造し、34件（17組）での試験運用を行いました。

画像解析に当たって、前後2枚の画像だけでなく複数枚の画像の変化率を時系列に計測し、画像変化率の他に画像変化パターンからも解析できるようにし、アラーム発信に至る精度を高めるよう改良しました。

介護施設予約システムを市内の介護老人福祉施設4箇所の外に、新たに介護老人保健施設3箇所でも予約申込みできるようにシステムの改造を行い、ショートステイ介護サービスを提供する市内事業所7箇所全てで試験運用を行いました。

高齢者施策、介護等に関する市からのお知らせ、市内介護事業所等の施設概要及び空室情報、介護福祉に関するQ&Aコーナー、介護に関するお役立ちサイトの紹介等、市民・行政・介護関係者にとって役立つ情報が共有できるよう共通利用プラットフォームを構築し、「南相馬市介護情報ネット」の名称で南相馬市のホームページにリンクし、一般市民への公開を開始いたしました。

2. 目標の進捗状況

指標	目標値	結果の数値	達成状況	計測方法・出展等
見守りシステムの試験運用数	試験運用数 30(15組)	試験運用数 34(17組)	○	試験運用実数
在宅介護サービスの計画目標数量に対する事業実績割合の増加	対18年度 比10%増加 16,651日	23,989日	○	平成21年4月～22年2月の給付実績+(平成21年3月分の給付実績)×0.9により推計

3. 達成状況が△又は×の場合はその理由

<委託業務説明書>

1 平成21年度事業実施において明らかとなった課題

「在宅介護見守りシステム」

解決した課題

見守りシステムの利用拡大を図るには、利用希望者が所有するパソコンのOSに対応することが求められることから、Windows XPの外にWindows Vistaへも対応するようシステムの改造を行い、利用対象範囲を広げることができました。

見守りカメラの画像に大きな変化等、異常があったとしてアラーム発信に至る精度を高めるため、前後2枚の画像だけでなく、複数枚の画像の変化率を時系列に計測し、画像変化率の他に画像変化パターンからも解析できるシステムへと改良しアラーム誤送信を少なくすることにより、在宅介護家族の「見守り」の負担軽減を図ることができました。

残る課題

Windows 7が平成21年10月に発売されたことから、新OSへの対応について検討する必要があると思われます。

「共通利用プラットホームシステム」

解決した課題

市内4箇所の介護老人福祉施設の他に、新たに介護老人保健施設3箇所でも予約申込みができるようシステムの改造を行い、ショートステイ介護サービスを提供する市内事業所7箇所全てで試験運用を行うことにより、施設利用申込みできる居宅介護支援事業所、ケアマネージャー、登録要介護者の数も大幅に増え、利用件数も増えております。

利用申込みと施設側の部屋割り当てが円滑に行えるようになり、ケアマネージャーから介護施設利用者へのショートステイ可能な日時の回答も速やかに行えるようになり、利用者の利便性も向上しました。

介護施設予約システム運用実績

介護老人福祉施設	4事業所
介護老人保健施設	3事業所
居宅介護支援事業所	23事業所
ケアマネージャー	60人
登録要介護者	365人
利用件数（平成21年4月～22年2月）	3,533件

共通利用プラットホームを「南相馬市介護情報ネット」の名称で南相馬市のホームページにリンクさせ一般に掲示しており、高齢者施策、介護等に関する市からのお知らせ、市内介護事業所

等の施設概要及び空室情報、介護福祉に関するQ & Aコーナー、介護に関するお役立ちサイトの紹介等、市民・行政・介護関係者にとって役立つ情報が共有できるので、要介護者の家族が必要とする情報が入手しやすくなり、在宅介護をサポートすることができるようになりました。

残る課題

市内の介護施設、ケアマネージャーを対象に試験運用を行っていますが、市外の居宅介護支援事業所(ケアマネージャー)が市内の介護老人福祉施設、介護老人保健施設の利用申込みを行う場合、システムの利用を認めるかどうか、認める場合の対象市町村の範囲とID発行、セキュリティ確保をどのようにするか、運用する上で検討を行う必要があります。

2 自律的・継続的運営の見込み

「在宅介護見守りシステム」

システムの保守管理費等については、市でできる限り負担することにより、利用者負担額を減らし、継続的に運営ができるよういたします

「共通利用プラットフォームシステム」

特殊な機器類を必要としないことから、システムの保守管理費等については、市でできる限り負担することにより、利用者負担額を減らし、継続的に運営ができるよういたします。

3 今後の展開方針

在宅介護見守りシステムのモニター選定の際、ブロードバンド環境が整備されていないために、希望しても利用できなかった方が何件かありましたが、光ファイバ網の整備を毎年行ってきたことにより平成22年度には南相馬市内ほぼ100%の世帯で超高速のインターネットサービスが利用できるようになります。

今後は、超高速インターネット通信環境を活用して、より多くの在宅介護者、ケアマネージャー、介護施設担当者に「在宅介護見守りシステム」、「共通利用プラットフォームシステム（施設予約システム含む）」を利用いただき、在宅介護を推進いたしたいと考えております。

<実施体制説明書>

1 実施体制

南相馬市 I C T活用介護システムモデル構築協議会

(目的)

I C Tを活用した介護サービスに関する全体的な調査・検討等の協議。
以下の2部会により、分担推進。

- ①「共通利用プラットフォーム部会」
- ②「在宅介護相互見守りシステム部会」

南相馬市情報政策課

南相馬市高齢福祉課

うつくしま V S T 相双支部

南相馬福祉会

南相馬市社会福祉協議会

伸生福祉会、竹水会

慈誠会、伸裕会、厚寿苑

南相馬市・N P O・福祉団体の3者により「南相馬市 I C T活用介護システムモデル構築協議会」を結成し、事業実施に係る全体的な協議を進めました。また、事業実施の効率化を図るため、協議会内において「共通利用プラットフォーム部会」及び「在宅介護相互見守りシステム部会」の2部会を編成することにより、各々の分野における具体的な調査・検討を実施し、プランニングから実施結果の検証に至るまで、相互に補完できる体制づくりを行いました。

2 各主体の役割

NO	氏名・団体名	役 割
1	南相馬市 I C T活用介護システムモデル構築協議会	I C Tを活用した介護サービスに関する調査・検討 行動計画の策定、モデルの継続運用課題検討
2	南相馬市情報政策課	I C T利活用の総合マネジメントを実施 情報システム構築マネジメント
3	南相馬市高齢福祉課	市内の介護、福祉関連事業の総合調整と総合運営 介護サービス提供体制再構築マネジメント
4	うつくしま V S T 相双支部	I C T利活用の通信方式特許を使用したシステム構築の総合マネジメント

5	南相馬福祉会	介護施設予約システム等の開発に係る助言を行なう
6	南相馬市社会福祉協議会	システムを試験使用し改善策の提言及びシステム要望に係る意見提出
7	伸生福祉会、竹水会	ショートステイ介護サービス事業所としてシステムを試験使用し改善策の提言及びシステム要望に係る意見提出
8	慈誠会、伸裕会、厚寿苑	介護老人保健施設としてシステムを試験使用し改善策の提言及びシステム要望に係る意見提出

事業実施進行表

実施内容	H21 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11 月	12 月	H22 1月	2月	3月
協議会等開催	△	△	△	△		△	△	△	△	△	△	△
継続運用中のシステムの保守	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
システム構成の検討・決定	→											
システム構築に係る事業者決定	→	→										
見守りシステム改良設計			→	→	→		→	→	→	→		
見守りシステム稼働（継続分）	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
見守りシステム稼働（新規分）				→	→	→	→	→	→	→	→	→
共通利用プラットフォームシステム改良設計			→	→	→		→	→	→	→		

共通利用プラットフォーム（施設予約システム）稼働													
													→
〃（プラットフォーム）稼働													
													→
報告書作成													→

その他

本事業により構築したウェブサイト又は本事業を掲載したウェブサイト

[1] <http://www.city.minamisoma.lg.jp/joho/ICT.jsp> [市ホームページ]

[2] <http://yumesoma.jp/msp/index.php> [共通利用プラットフォーム] 南相馬市介護情報ネット

平成21年度地域ICT利活用モデル構築事業 システム設計書

実施団体名：福島県南相馬市

代表団体名：

事業名称：南相馬市ICT活用在宅介護システムモデル

1 概要

「在宅介護見守りシステム」

前年度に開発した画像解析システムを改良し、カメラからの画像を連続的に解析することで、今までのように単純な画像変化をとらえるだけではなく、画像変化の推移を把握することでアラーム発信の精度を高め、誤報を低減させる仕組みを開発いたしました。

「共通利用プラットフォームシステム」

介護施設予約システムの利用を複数の介護サービス事業所に拡大していくために必要となるシステムの改良を順次行ないました。

南相馬市の介護福祉に関する情報を一括して閲覧することができる「南相馬市介護情報ネット」を構築し、施設情報の更新やQ&A内容の登録ができるシステムを開発いたしました。

2 運用結果

公共が持つ知的財産を使用し、地域の行政、大学、民間事業者、NPO等が総合的に連携して地域を活性化するという事業システムが構築可能となりました。地域で課題となっている高齢者の在宅介護問題を、掛ける費用を安価にしながらの解決が可能になりつつあります。

運用について「在宅介護見守りシステム」は、大きな支障・事故等は発生せず、順調な稼動でした。また、本年度画像連続解析システムを搭載したことにより、不要なアラームの到着が減少したことは、介護者の負担を軽減する意味において多大な効果があったと考えます。

「共通プラットフォームシステム」については、複数の介護サービス事業所の事情や運用ルールの相違などにより、システム修正を何度か行いましたが、事業進捗の中で適切な運営方法を見出すことができました。「南相馬市介護情報ネット」につきましても、協議会の皆様からの御意見にもとづいて各情報がまとめられ、予約システムと連動した空室情報表示や、市民の皆様から質問を受け付けるQ&Aシステムなども順調に稼動しております。

3 課題・改修の必要性

「南相馬市介護情報ネット」が完成したことで、南相馬市の介護に関わる多くの情報が「市民」「行政」「居宅介護支援事業所（ケアマネジャー）」「介護サービス事業所」などの関係者で共有できるようになり、情報の一元化が図れるシステムとなりました。

今後は「南相馬市介護情報ネット」のコンテンツを更新していくことで、ここを見れば常に最新の情報が得られるということを認知してもらい、より多くの人々に活用してもらえよう運用していく必要があると考えます。

4 その他